

FACE

廣岡哲也



「こころ獲る住まい」が開発のコンセプト。社長を囲んでのミーティングは、若手社員からも積極的な意見が飛び出す



幹部社員との懇談はリラックスした雰囲気です



ジャズシンガーの鎌戸智恵さんをイメージキャラクターに、新たにシニア向け分譲マンション事業に本格参入した



商業施設とマンションの複合開発で誕生した「FESTA TOWN」(埼玉県若槻市)のショッピングモール「FESTA SQUARE」のオープニングセレモニー(右から4人目が廣岡氏、その左隣はヤオコーの川野幸夫会長。2006年9月)

FACE

TETSUYA HIROOKA

# フージャースホールディングス社長 廣岡哲也



社名の由来は学生時代に所属していた学生団体「フージャース」に由来する。フージャースは学生時代に所属していた学生団体「フージャース」に由来する。フージャースは学生時代に所属していた学生団体「フージャース」に由来する。

1963年生まれ、87年慶応義塾大学法学部卒業。同年リクルートコスモス(現コスモスイニシア)入社。04年フージャースを設立して社長。2002年フージャースタック上場。03年東証2部上場を経て、翌04年東証1部に上場。13年4月持ち株会社制度への移行に伴いフージャースホールディングス社長に就任。

欲しかった暮らしを、しよう。

FACE 廣岡哲也



現在分譲中の「デュオアベニュー国立」(東京都国分寺市)。アーチ型のデザインがセールスポイント。この日は完成した物件の視察に訪れた



株式上場は通過点。「これからは会社の発展とともに、社会へ貢献できるような事業に取り組みたいと思います」



住宅の中に入って担当販売員から説明を受け、最後まで入念にチェックする



日本で2番目の標高を誇る「北岳」登山にチャレンジ。仲間みんな、特別な経験をおし達成感と感動を味わうことをテーマに、昨年は富士山に登った。グループ各社の社長、部長クラスから1年まで、今年は約50人が参加した



茨城県つくばみらい市で建設中のシニア向け分譲マンションの目玉は天然温泉と、一大テーマでは話題になります。日本人は昔も今も温泉が大好きなので、敷地内を巡り「みらいの湯」と名付けました。

## 郊外、大規模のマンション分譲から次はシニア向けに参入

1994年にマンションデベロッパーとして創業し、9年9か月後の2004年、ハイスペックで東証1部に上場した。

リクルートコスモスを経て独立した廣岡氏は、大手と同じ土儀で戦っても勝機がないと考え、「マーケットには出ていないが、顧客が本当は欲している商品を提供しよう」と考えた。その具体策が、郊外、バス便、環境創性をコンセプトとする大規模ファミリーマンションであった。駅近マンションこそ、価値があると

いう業界の常識とは懸け離れていたが、「毎日通勤するご主人には多少不便でも、割安で広い居住空間を得られるメリットのほうを遊ぶお客さまも多いのです」と同社はこれで急成長したが、リーマンショック後は大手企業もこの分野に参入し、今も激烈な競争を展開している。経営環境の変化に対応すべ

く、今最も注力しているのがシニア向け分譲マンションとリノベーション事業である。そのうち、シニア向け分譲マンションの自社物件第1弾となるのが茨城県つくばみらい市に建設中の9階建て総戸数150戸の大規模マンション「デュオアベニューつくばみらい」。「シニア層で介護を必要としない人は9割もいる。あえて終身利用権ではなく、相続や売却も可能な資産性の高い分譲型で、シニアマンション事業を始めてきた」と廣岡氏。「デュオアベニューつくばみらい」は24時間見守りサービスや看護介護施設のほか、娯楽施設や天然温泉の大浴場なども設置する。廣岡社長は次のステージとして、法定再開発等による、地方都市の活性化が念頭にある。既に両館市において、同市・中心市街地活性化基本計画に基づき市街地再開発事業に、また、宮城県石巻市において、同市「復興整備計画」に基づき再開発事業に取り組むことを予定している。「これまでは自己と自社の成長に邁進してきましたが、これからは時代の変化に合わせて、社会の要請に応えながら成長する企業になりたいですね」と語る。

欲しかった暮らしを、しよう。